

九州工業大学 季刊

九工大通信

Kyushu Institute of Technology

vol.23

2005.1.1

Winter

座談会

九州は新産業・技術社会へ どう対応するか

北九州市 産業学術振興局 古瀬 利博 理事
九州工業大学 西野 憲和 副学長
九州工業大学 大学戦略室 佐伯 心高 教授

研究最前線

音声のブラインド信号分離 —聖徳太子プロジェクト—

生命体工学研究科 脳情報専攻 松岡 清利 教授

産学連携

医用測定システムから 産業用測定システムへ

情報工学部 電子情報工学科 藤居 仁 教授
小西 直樹 助教授

大学の目指すもの

九州工業大学の研究プロジェクト

九州工業大学 西野 憲和 副学長(企画・広報担当)

国際交流

国際学術交流協定校の紹介

お知らせ

▲「音声のブラインド信号分離
—聖徳太子プロジェクト—
からのイメージイラスト
(「研究最前線」参照)

九州は新産業・技術社会へどう対応するか



最近、国内各メーカーが製造拠点を海外から国内へシフトする現象が起きており、特に九州への進出は目立っています。産業構造が変わってきているとも言えるなか、本学や地元北九州市はどのような取り組みを行っているのでしょうか。そこで今回は北九州市から産業学術振興局の古瀬利博理事を迎え、本学教員と語り合っていました。

(聞き手は溝越明・西日本新聞社論説委員会副委員長)

■生産拠点を九州へ

九州ではキャノンが大分市でデジタルカメラ・ビデオ製造の新工場を誕生させ、トヨタ自動車は福岡県荏田町にエンジン工場の新設を発表しました。宮崎県国富町では、富士通日立プラズマディスプレイの新工場建設が始まり、富士写真フイルムも熊本県菊陽町で1000億円をかけて液晶表示装置部品工場を建設することになりました。九州の産業振興に明るい兆しが見えてきたようですが……

佐伯 最近では製造業の拠点を国内に戻す傾向があり、産業構造が変わりつつあるとも言えるでしょう。理由の一つは製造方式の変化です。マニュアル通りに流れ作業をするライン式から一人ずつが責任をもつセル方式へ変わっており、これは日本人が得意とするものです。また、九州が選ばれる理由については、例えば自動車なら九州工場は最新鋭で生産性が高く一人多工程方式に対応しやすいですし、災害対策としても拠点を分散する必要もあります。さらに九州には優秀な中小企業の集積もあり、人材確保が比較的容易です。これは九州側からしても、優秀な人材の流出を防げるメリットがあります。実際、九州各県のトップも積極的に企業誘致を図り、行政も補助金を増額するなどして功を奏しています。最後に九州はアジアに近い物流面や研究交流拠点をもつことを考えると有利と言えるでしょう。

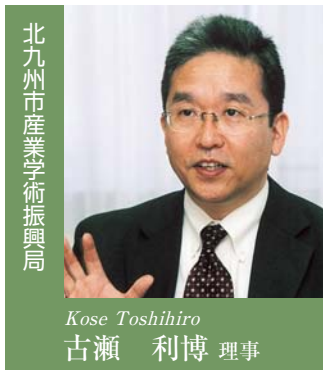


——北九州市には半導体設計の関連企業の進出も相次いでいます。企業誘致を含め、その取り組みの現状は。

古瀬 産業、経済構造のグローバル化が進んでいます。90年代からは工場の立地もグローバルとな

【出席者】

- 北九州市産業学術振興局 古瀬 利博 理事
- 九州工業大学 西野 憲和 副学長
- 九州工業大学 大学戦略室 佐伯 心高 教授



北九州市産業学術振興局

Kose Toshihiro
古瀬 利博 理事

り、中国などアジアに注目が集まりました。しかし人材や技術の面で日本が優れている部分も多く、モノづくりの国内回帰現象が起きていると思います。そのなかで、九州は成長著しいアジアに近いという大きなメリットがあります。これをどう生かすかは北九州市の戦略においても大きな課題です。また、北九州には金型やメッキな

どさまざまな実績をもつ中小企業がたくさんあり、モノづくりの基盤があります。公害で苦勞した経験から環境技術にも長けており、それらを組み合わせる北九州の魅力をアピールしたいと思います。現状では、若松の学術研究都市の存在が大きいですね。3年前に開設されたから半導体設計の関連企業の進出が続き、現在では20社以上あります。これは最初から情報環境を柱に、産学連携を進めたのが良かったと思います。国公私立が集合することで優秀な頭脳が集積し、インフラも充実していることが企業側としても魅力のようです。

■大きなチャンス

——こういった動きに地元九州の大学として、教育、人材育成面でどのように対応されますか。

西野 多くの企業が九州に進出しつつある現状は大変なチャンスだととらえています。昨年4月に実施された国立大学法人化でさまざまな新しい試みがなされており、さらなる追い風になっています。

今、早急に求められるのは研究による産業界への貢献ですが、そのためには外部からの人材登用も一つの方法でしょう。昨年4月に設置したヒューマンライフト開発センターもその動きの現れです。

ここでは、商品開発をまず念頭に置いた研究が行われています。さらに、学内で研究プロジェクトを立ちあげ、有望なものには積極的に人材を追加するなどしています。

一方、比較的時間がかかる教育については、人材のニーズを産業界から積極的に聞き、必要な体制を整えています。また、情報工学への取り組みを全学に広げたい。

工学部の学生でも高レベルの情報教育を徹底し、情報技術を駆使したeラーニングを通して社会との接点を強くもつよう改革したいですね。本学の理念は「技術に堪能なる士君子」の養成ですが、さらにリーダーシップが発揮できる、独立し完成された技術者が産業界から求められており、その要望に



Nishino Norikazu
西野 憲和 副学長

九州工業大学

応えたいと思います。高レベルのオンリーワンの大学を目指したいですね。

——これから先端分野の企業の研究開発は、大学との連携が極めて重要になってきます。進出企業との産学連携をどう構築されますか。

佐伯 大学は積極的に企業訪問し、意見交換をするべきです。企業のニーズを拾い上げ、大学の技術シーズをプレゼンテーションし、相互に有益なプロジェクトを立ち上げる。かつ、国や県、市の支援も積極的に活用したい。戦略室には大きく3つの役割があります。

まず、学外での知名度アップ。各種会議に積極的に参加し、外部へPRしています。METI(経済産業省) 大学講座も復活させましたし、地元の中学から相談を受け、親子講座も新設します。次に、地域社会への貢献と外部資金の獲得。学内プロジェクトを掘り起こし、公募プロジェクトに提案するなど

の支援を行います。九工大の先生方は遠慮がちな傾向があり、素晴らしい研究をされているのに惜しい。そこで、プレゼンテーション技術のアドバイスを行うなどしています。そして教員・学生の意識改革。足元を知りながら世界を知る、チャレンジ精神、コンピテンシー(行動能力、成果の出る能力、

競争力のある能力)をもってほしい。

■九工大への期待

——行政側は産学連携をどのように支援されますか。

古瀬 行政は産と学の間を繋げるのが仕事で、現在、その成果が一番見えているのが学研都市です。ほかにベンチャーや地場企業も積極的に支援していきたい。それには最先端の技術や人材が必要とされ、当然大学への期待は大きいわけです。九工大は優れた先生も多く、キラリ光るものがあると思います。ただ、知名度が今ひとつなのが難点。やはり、どんどん外部へアピールする必要があるでしょう。そういった意味から戦略室の動きを支えていきたいと思

います。——意外と知られていないというお話が出ましたが、その点について大学の対策は。

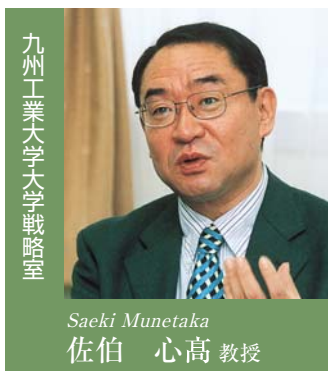
西野 一言で言えば意識改革。これまで研究者は、同じ分野の研究者仲間ばかりを意識していました。その世界では有名でも産業界ではほとんど知られていない場合もあったほどです。ですから九工大でもせっかくなりの研究内容を産業界や地元住民にもっとアピールするため、講演会や講座に積極的に参加した方がいいんです。

——地元九州、とりわけ北九州市の産業振興にとって、九工大の果たす役割は大きい。北九州市側から九工大への注文は？一方、九工大から北九州市への注文はありますか？

古瀬 産学連携を進める上で、大学も投資の対象だという考え方が非常に重要だと思えます。これは北九州市も同じ。投資してリターンが見込める、それが市の魅力になるわけです。九工大には高い技術をもった先生がたくさんおられ、投資価値があるんです。それを投資家に説明するようにアピールしてほしい。もう一つ大切なのはスピード。変化の激しい世の中に臨機応変に対応することが求められます。その点、九工大は学

長の強いリーダーシップで次々と新しい試みにチャレンジしていらっしやる。

佐伯 産と学をコーディネートする行政の役割はとても重要だと思えます。また、スピードの話



Saeki Munetaka
佐伯 心高 教授

九州工業大学戦略室

ですが、以前に比べ行政の対応は格段に早くなっていると思います。九工大も法人化により意志決定がスピードアップし、オンリーワンでかつファーストワンになれるようになった。行政とは今後も緊密な関係を保ち、双方にプラスになればいいと思います。

西野 文部科学省の施策としての知的クラスター(集合体)があります。北九州ヒューマンテクノクラスターもそうですが、この仕組みは大変有効で、大きな投資を得た結果、研究成果も上がっています。さらに、研究だけではなく産

業を育成する必要があるという意識改革につながっています。これは実に戦略的なお金の使い方だと思えます。今後は知的クラスターを経験した層が産業クラスター的なものを提案していくことも求められるのではないのでしょうか。

古瀬 知的クラスターから生まれたものが産業クラスターに進化し、さらに事業化につながる動きが見えてきたところです。これを機能させることは、産業振興を促す上で重要だと思っています。最後に、産学連携を考えると、今後は広域的な視点をもつ必要があると思います。その点、九工大は世界各国の大学と提携していますし、アジアからの留学生も多く、大いに期待できますね。

■太子の耳を実現化

聖徳太子の生前の名前はおよそ十一知られていますが、その一つに「豊聡耳命」（とよとみのみこと）というのがあります。これは、太子が一度に十人もの人の話を聞き分けることができたという言い伝えから、耳の聡い賢い人であるという意味であるとされています。確かに、複数の人が同時に話をしているときに、すべてを聞き取れることは、仮に話者が二人であっても難しいものです。ましてや十人もの人が同じ音量で同時に話をしているときには、一人の音声ですら聞きとれないでしょう。我々の研究室では、聖徳太子が持っていたとされるこのような能力を工学的に実現する研究を行っています。このプロジェクトを「聖徳太子プロジェクト」と名付けていますが、興味本位でやっているわけではなく、ありません。この技術にはいろいろな応用があります。たとえば、ロボットの音声認識装置の前処理、携帯電話の通話品質向上（ノイズの除去）などが考えられます。

■音を分離する

使われる手法は「ブラインド信号分離」と呼ばれるもので、ここでは簡単に、音源が二つの

音声のブラインド信号分離

—聖徳太子プロジェクト—

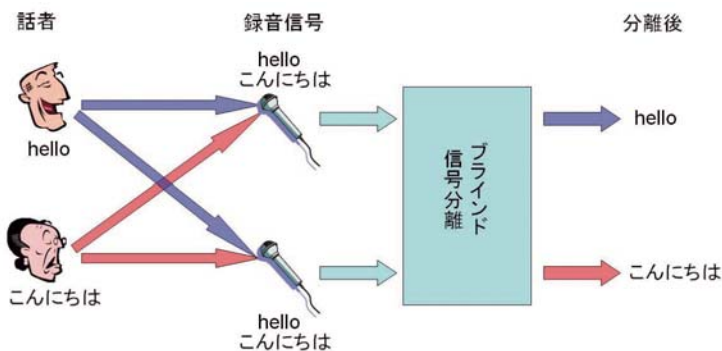


図1 ブラインド信号分離の過程



生命体工学研究科
脳情報専攻
Matsuoka Kiyotoshi
松岡 清利 教授

場合を例にとりて説明します（図1）。この場合、二つのマイクロホンを話者の前に置きます。もし一つのマイクロホンに一つの音声だけが入ってくるのならば、もちろん何もする必要はありません。問題は、両方のマイクロホンに二つの音の混合音が入

ってくることです。すなわち、二つの混合音から、もとの二つの音を分離しなければなりません。

ところで、「ブラインド信号分離」の「ブラインド」は、音源からマイクロホンまでの伝達特性（減衰や時間遅れ）が分からないことを意味します。逆に、それがわかっている場合は簡単で、減衰や遅れを考慮して、2つの混合音に対して適当な処理をしてやると、個々の音は容易に抽出できるのです。しかし、通常はそのような伝達特性が事前にわかることはなく、マイクロホンで検出した信号のみから、もとの信号を推定・復元しなければなりません。ここに、この技術の難しさがあるのです。

伝達特性がわからない状況で音声分離を実現するカラクリを、簡単に説明しましょう。マイクロホンで取得された音声は、1人の話者の声ともう1人の話者の声が混ざり合ったものです。ここで重要な仮定は、二つの原音はまったく互いに無関係であるということです（専門的には、統計的独立と言います）。そこで、録音された2つの音声信号を、適切に処理して、2つの統計的に独立な信号に変換すると、元の話者の声を得ることができるのです。仕組みは一見簡単ですが、処理や計算は複雑で、とくに統計的独立性の解析のために、高次統計学という難しい数学的道具が必要になってきます。

■生体信号へも応用

我々の研究室では、「ブラインド信号分離」に関する研究を、理論および応用の両面から、十年近く研究してきました。現在のところ8音の分離まで成功しています（図2）。しかし、解決しなければならぬ課題も多く残されています。理論の点からは、より分離精度の高いアルゴリズムを開発することが望まれます。応用の点からは、実時間で処理をすることが必須で、そのために現在、デジタル・シグナル・プロセッサと呼ばれる道具を用いて、実時間で分離を実行するシステムを開発しているところです。また、ブラインド信号分離技術は、音声分離だけでなく、複数の混合信号から原信号を分離抽出する状況であれば、どのような場合でも適用が可能で、我々の研究室でも生体信号（脳波、胃電）への応用も行っています。



図2 8音声の分離実験(真中に8個のマイクロホン、周囲に8個のスピーカがある)

医用測定システムから 産業用測定システムへ



Fujii Hitoshi
藤居 仁 教授



Konishi Naoki
小西 直樹 助教授

情報工学部 電子情報工学科

□ 実時間血流測定システム – Laser Speckle Flow Graphy(LSFG) –

この血流測定システムは「血液の流れ」という動きを測定するために、められています。

藤居・小西研究室では、レーザー散乱現象を利用した血流動態などをリアルタイムで測定する装置の開発・研究を行っています。具体的には図1のような、スペックルと呼ばれる斑点模様の明暗画像をCCDカメラなどで検出し、それをコンピュータに取り込み、画像解析を行うことで、図2のような血流の動態を表す血流マップを表示させています。この血流マップはリアルタイムで測定・解析が行っていますので、血流が刻々と変化する様子をアニメーションのように観察することができます①。この血流測定システムには、皮膚用や形成外科用から眼科用とさまざまなものが開発され、現在も医療機器メーカー、製薬会社、大学病院、開業医などと共同研究が進められています。

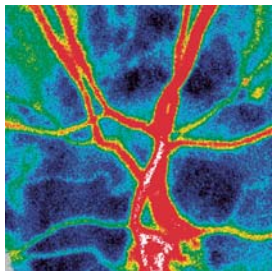


図2 血流マップ

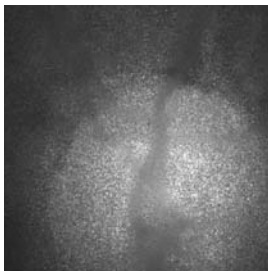


図1 スペックル画像

大量の画像データをコンピュータに取り込み、解析する必要があります。そのため専用の画像取り込み用のインターフェースカードを研究室で作成しています。また測定や解析のソフトウェアも研究室で作成するなど、ハードウェアからソフトウェアまですべて研究室で作成しています。

① <http://leo10.cse.kyutech.ac.jp/lsg/>

□ アルミニウム押出型材表面検査システム

アルミニウム押出型材はアルミサッシのような建材などに幅広く利用されています。普段から良く見かける材料のひとつです。この型材は、金型と呼ばれる製品の形をした穴より加熱して柔らかくなったアルミニウムを押し出して製作します。トコロテンを想像していただくのと分りやすいかと思いますが、押出型材の製品であるアルミサッシの表面を拡大して見ると、一方方向に細かな傷のようなものが見えますが、これは通常目立たず、製品の品質上問題ありません。しかし製品を押し出す金型に傷などがあると、図3のように押し出された製品に一筋の傷が付きます、欠陥品となってしまいます。この傷の見極めは大変難しく、人によっては傷に気が付かない場合もあります。現在この欠陥品の見極めには熟練した人が目視で抜き取り検査を行っています。もし傷が見つかったら前後に生産された製品の検査や不良品の廃棄など、非常に無駄が生じてしまいます。

そこで客観的な傷の判断と、オンラインで全品検査を目指して、表面検査システムの研究・開発を行っています。この検査システムを用いると、傷が発生した時点で製造ライン

を停止させ、傷の原因を取り除くなどの作業を行うことが可能となり、製品の生産性が向上することが期待されます。



図3 アルミニウム製品の表面にできた傷

□ 産学連携

血流測定システムでは、私たちの研究室がシステムの開発、使用するユーザーである大学病院や開業医や製薬会社、機器の製造販売を担う医療機器メーカーなどと必然的に産学連携の形が整ってきました。またアルミニウム押出型材表面検査システムの開発については、長崎にある協和機電工業(株)より検査システムについての技術相談があり、共同研究が始まりました。この検査システムは中小企業総合事業団による補助金を受託し、産学官連携の共同研究として現在進行中です。

九州工業大学の 研究プロジェクト



九州工業大学
Nishino Norikazu
西野 憲和 副学長
(企画・広報担当)

九工大が今年度から国立大学法人九州工業大学となったことに伴い、様々な企画を実行しているところ。そのうちのひとつとして、九工大における研究発展のための試みについて紹介します。

国立大学法人は文部科学省から示された中期目標に基づき、今後6年間の中期計画を提出して、承認を受け、それに基づいて運営交付金を交付され、大学の経営のために運用します。この運営交付金以外の種々の外部資金を獲得することができると、それを獲得した研究者のみならず、九工大も研究を活発化するための運用資金を得ることになります。そこで九工大の研究に秀でた先生方に、特に高いレベルの研究をどんどん推進していただき、九工大全体の牽引力を発揮してもらおうと考えました。

昨年6月に学内から公募を行ったところ、42件の研究プロジェクトの応募がありました。5〜10人のメンバーによるプロジェクトの提案が大多数でしたので、全学の半数近くの先生方が関与しており、高い意欲が感じられました。

全学レベルの研究プロジェクトの選定は大変責任の重い作業ですので、選定のための観点を明瞭にして、書類審査に加えてヒアリングを行いました。その中から最終的に、提案さ

宇宙環境技術研究センター
【代表：趙孟佑教授(工学部)】

宇宙プラズマ、超高速微粒子、放射線にさらされる人工衛星や宇宙船は、安全に守られる必要があります。放電の深刻な問題が発生します。本センターでは、JAXA(宇宙航空研究開発機構)や宇宙関連企業の要望

れた研究プロジェクトを元にセンターを設置するもの4件、および全学研究プロジェクトとして認定し、外部資金獲得等の必要な支援を行い、育成をするもの5件を選び出しました。その他の提案についても、今後先生方の意欲を尊重して、もっと高いレベルに到達するように指導育成する予定です。

今回は研究センター化を行って、九工大が戦略的に推進する研究プロジェクト4件を紹介します。

ネットワークデザイン研究センター
【代表：尾家祐二教授(情報工学部)】

インターネットは日常や技術社会に深く広く浸透しています。今後も快適・安全なユビキタス社会の実現のために次世代ネットワーク技術の開発が重要です。本センターでは総務省のプロジェクトに参画し、高品質次世代インターネットの基盤技術・利用技術の研究開発を行います。

小倉駅北口のA1Mに本拠を置き、新任の研究者を配置して支援します。

に依って、宇宙空間の安全を確保します。戸畑キャンパスに本拠を置き、新任の研究者を配置して支援します。

先端金型センター
【代表：鈴木裕教授(情報工学部)】

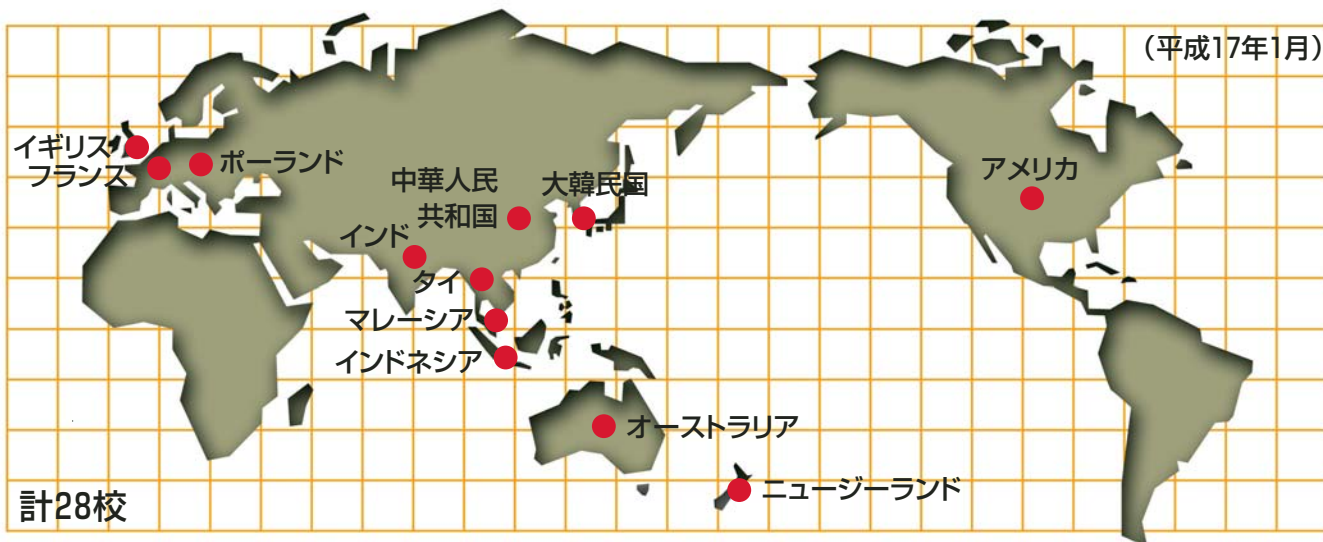
自動車や、携帯電話など、形あるものをつくる時には、形を決めて、型にはめることも重要です。金型技術は日本のものづくり産業の大切な推進力となっています。そして九工大は、自動車産業や半導体産業が、北部九州に新たな展開を行っていることを注視しています。本センターは情報工学部に拠点を置き、最先端金型技術を開発し、ものづくり技術の中核人材を育成します。

バイオマイクロセンシング技術研究センター
【代表：西野憲和教授(生命体工学研究科)】

遺伝子、タンパク質、酵素、抗体等々の生体分子をあるがままに、極微量の生体試料から検出できると、健康や食品や環境のために、迅速な対策が立てられます。生体分子の存在を光や電気で検出する技術を開発し、半導体技術を応用します。若松の生命体工学研究科に本拠を置きます。

今回のような試みを通じて、九工大が世界の技術をリードするオンラインの大学として、現在の在学生、父母の皆様、同窓生の方々が九工大を誇りに思う母校として、次々に努力を重ねていきます。

▼国際学術交流協定校



国際交流

国際学術交流協定校の紹介

九州工業大学は、平成17年1月現在、世界12か国28大学と国際学術交流協定を結び、協定校と連携を取りながら国際交流を積極的に推進しています。

学生に対して幅広い教育環境を提供するため、交換留学や海外語学研修の制度を取り入れています。

- 1. 締結部局
- 2. 締結年月日
- 3. 主な協定内容

<p>イギリス</p> <ul style="list-style-type: none"> ●クランフィールド大学 <ol style="list-style-type: none"> 1. 全学 2. 平成13年7月25日 3. 教育及び学術交流 ●サリー大学 <ol style="list-style-type: none"> 1. 全学 2. 平成15年5月28日 3. 教育及び学術交流 	<p>オーストラリア</p> <ul style="list-style-type: none"> ●シドニー工科大学 <ol style="list-style-type: none"> 1. 全学 2. 平成7年5月9日 3. 教育及び学術交流 ●モナシュ大学 <ol style="list-style-type: none"> 1. 全学 2. 平成13年2月14日 3. 教育及び学術交流 ●ウォロンゴン大学 <ol style="list-style-type: none"> 1. 全学 2. 平成16年3月25日 3. 教育及び学術交流 	<ul style="list-style-type: none"> ●清華大学熱能工程系 <ol style="list-style-type: none"> 1. 工学部 2. 平成7年10月30日 3. 教育交流 ●北京大学力学と工程科学系 <ol style="list-style-type: none"> 1. 工学部 2. 平成13年10月15日 3. 教育及び学術交流 ●復旦大学脳科学研究センター <ol style="list-style-type: none"> 1. 生命体工学研究科 2. 平成13年7月26日 3. 教育及び学術交流 ●大連理工大工学環境生命学院 <ol style="list-style-type: none"> 1. 生命体工学研究科 2. 平成16年6月15日 3. 教育及び学術交流 	<ul style="list-style-type: none"> 3. 教育及び学術交流 ●釜山大学校 <ol style="list-style-type: none"> 1. 全学 2. 平成14年4月9日 3. 教育及び学術交流
<p>フランス</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ナンシー工科大学 <ol style="list-style-type: none"> 1. 全学 2. 平成15年5月27日 3. 教育及び学術交流 	<p>ニュージーランド</p> <ul style="list-style-type: none"> ●オークランド工科大学 知識工学・知識発見研究所 <ol style="list-style-type: none"> 1. 生命体工学研究科 2. 平成14年11月8日 3. 教育及び学術交流 	<p>大韓民国</p> <ul style="list-style-type: none"> ●大田産業大学校 <ol style="list-style-type: none"> 1. 全学 2. 平成11年11月23日 3. 教育及び学術交流 ●昌原大学校 <ol style="list-style-type: none"> 1. 全学 2. 平成8年1月29日 3. 教育及び学術交流 ●忠州大学校 <ol style="list-style-type: none"> 1. 全学 2. 平成8年2月27日 3. 教育及び学術交流 ●韓国海洋大学校 <ol style="list-style-type: none"> 1. 全学 2. 平成11年5月11日 3. 教育及び学術交流 ●浦項工科大学脳科学研究所 <ol style="list-style-type: none"> 1. 生命体工学研究科 2. 平成13年3月30日 	<p>インド</p> <ul style="list-style-type: none"> ●インド工業大学デリー <ol style="list-style-type: none"> 1. 全学 2. 平成16年3月12日 3. 教育及び学術交流
<p>ポーランド</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ニコラスコベルニクス大学 物理天体情報学部 <ol style="list-style-type: none"> 1. 生命体工学研究科 2. 平成13年12月7日 3. 教育及び学術交流 	<p>中華人民共和国</p> <ul style="list-style-type: none"> ●山東大学 <ol style="list-style-type: none"> 1. 全学 2. 平成9年11月4日 3. 教育及び学術交流 ●華東交通大学 <ol style="list-style-type: none"> 1. 全学 2. 平成12年6月30日 3. 教育及び学術交流 ●北京科技大学 (旧北京鋼鉄学院) <ol style="list-style-type: none"> 1. 全学 2. 昭和59年11月3日 3. 学術交流 	<ul style="list-style-type: none"> ●タマサート大学 シリンドホーン国際工学部 <ol style="list-style-type: none"> 1. 工学部 2. 平成13年1月11日 3. 教育及び学術交流 ●カセサート大学理学部 <ol style="list-style-type: none"> 1. 生命体工学研究科 2. 平成14年2月12日 3. 教育及び学術交流 	<p>タイ</p>
<p>アメリカ合衆国</p> <ul style="list-style-type: none"> ●オールドドミニオン大学 <ol style="list-style-type: none"> 1. 全学 2. 平成2年4月17日 3. 教育及び学術交流 ●メイン大学 <ol style="list-style-type: none"> 1. 全学 2. 平成8年8月30日 3. 教育及び学術交流 	<p>マレーシア</p> <ul style="list-style-type: none"> ●プトラ大学 <ol style="list-style-type: none"> 1. 全学 2. 平成14年2月4日 3. 教育及び学術交流 	<p>インドネシア</p> <ul style="list-style-type: none"> ●バンドン工科大学 <ol style="list-style-type: none"> 1. 全学 2. 平成15年2月28日 3. 教育及び学術交流 	

お知らせ

創立100周年記念事業のサイトを開設

本学は、平成21年(2009年)に創立100周年を迎えますが、このたびホームページに「創立100周年記念事業」のサイトを新たに開設いたしました。

100年史編集委員会、附属図書館史料室、資料館を掲載していますので、ぜひアクセスしてください。



戸畑キャンパスにある創立者胸像

ホームページによる合格発表

平成17年2月25日(金)(前期日程)及び3月12日(土)(後期日程)に実施される個別学力検査の合格者番号を、ホームページに掲載します。

合格発表の詳細につきましては、試験終了後トップページに掲載しますので、ご確認願います。

なお、電話等による合否に関する問い合わせには応じません。



昨年の合格発表(前期日程)

平成16年度卒業式・学位記授与式

- ・日時 平成17年3月25日(金) 10:00~
- ・場所 九州厚生年金会館 (北九州市小倉北区大手町12-3)



昨年度の卒業式



就職情報

◎「就職に強い九工大」の充実した就職支援体制について

本学は、昨今の厳しい就職環境の中で、毎年高い就職率を誇っています。



就職セミナー「車座になって先輩と語ろう」

週刊東洋経済2004年10月9日号掲載「特集/本当に強い大学2004」の「就職に強い学部はどこだ!」において、本学工学部が就職率93.8%で全国理系ベスト100の第7位、情報工学部が就職率88.9%で第31位にランクされました。

大学としては、次のような就職支援を行っています。

- ①工学部・情報工学部・生命体工学研究科とも、各学科・専攻またはコースにそれぞれ就職担当教員を配置し、就職希望学生(学部4年生・大学院博士前期課程2年生)に対して、就職先が決定するまで責任を持って就職活動の指導をする体制をとっています。

- ②学生の希望と適性に合わせた就職ができるように、セミナーやガイダンスを実施しています。
- ③低学年の学生に対する就職相談窓口として、学生生活課専門員(就職指導担当)や各学生担当の指導教員等が相談相手となり、希望者には個別にカウンセリングも行っています。
- ④各キャンパスの附属図書館に、就職情報用パソコンを設置しています。

九工大通信では、皆様のご意見・ご感想をお待ちしております。

●宛先●

九州工業大学総務課企画・広報係
〒804-8550 北九州市戸畑区仙水町1-1
TEL:(093)884-3007 FAX:(093)884-3015
メールアドレスsou-kikaku@jimu.kyutech.ac.jp

最新の学内情報をホームページで発信しています。

九州工業大学では、最新の学内情報をホームページのトップページに、イベント・トピックスとして掲載しています。各種情報も提供していますので、ぜひアクセスしてください。

九州工業大学
ホームページアドレス <http://www.kyutech.ac.jp>



本学平成16年3月卒業・修了者就職先ランキング(男女合計/全学)

順位	会社名	就職者数(人)
1	日立製作所	12
2	船井電機	10
2	ソニーセミコンダクタ九州	10
4	松下電器産業	8
4	新日本製鐵	8
4	ユー・エス・イー	8
7	北九州市役所	7
7	三菱重工業	7
7	日本電気	7
7	マツダ	7
7	富士通テン	7
7	FCCテクノ	7
7	ニッソーサービス	7